

地域研究コンソーシアム(JCAS) オンデマンド・セミナー

京都大学地域研究統合情報センター 西芳実准教授 講演 「災害対応の国際協力を考える」 ～ 2004年スマトラ島沖地震・津波被災地の現場から ～

2015年7月18日 大阪府立北野高等学校六稜ホール
企画責任者：大阪府立北野高等学校 穴井友知

大阪府立北野高等学校は文科省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け(平成26年度からの5年間)、グローバル化する国際社会の中で力を発揮できる人材の育成に、より積極的に取り組むこととなった。

本校SGHの全体構想は、東南アジアを主なフィールドとして、経済(日本企業の進出)・災害(防災や国際協力)・比較文化(広告や労働力移動)の3方向から探究を行い、研究者・企業経営者・留学生等との交流や意見交換を深めながら、日本と東南アジアのパートナーシップについて「提言」発信を目標としている。

昨年度に引き続き、JCAS オンデマンド・セミナーのご協力を得て西芳実先生のご講演に接し、SGHアジア探究グループの生徒・教員が地域研究の重要性を再認識する機会を得た。

東南アジアと日本は災害が多発する点では共通しているが、そもそも「災害」とは何なのか、被災者に寄り添うためには何を踏まえるべきか、津波で失われたものは20万をこえる人命以外に何があったのかなど、視点を変えてみると、気付いていないことも多い。

「スマトラの被災者は笑っていた」

「遺体の見つからない肉親を弔わねばならなかった」

講演をお聴きしスマトラの現場を垣間見ると、災害対応とは防災や減災の技術を磨いて提供するだけではないこと、地域を知りそこに住む人々の現実を知ること極めて重要で、立派な国際協力であることがわかる。

この講演を契機として、本校の生徒が、より広い視野で探究活動に取り組んでくれることを期待している。

